

あいち農産物生産流通レポート

平成24年5月号

情報サロン		
・「グランド・ジェネレーション」を対象とした消費スタイル の提案について	……………	1
	(東京事務所)	
地域トピックス		
・東三河地域におけるトマトの生産動向について		
	(東三河農林水産事務所) ……………	2
東日本情報		
・「Farm to Wellness」 ～農場から健康へ～セミナーが開催されました		
	(東京事務所) ……………	3
西日本情報		
・スプレーカーネーションの新品種「カーネ愛知6号」の開発		
	(農業総合試験場) ……………	5
フラワーページ		
・母の日向けのカーネーション需要について		
	(東京事務所) ……………	7
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) ……………		8
・名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し ……………		9
花 き		
・切花・鉢花の5月の見通し(県内市場) ……………		2 1
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2012年2月) ……………		2 5
関連指数	……………	2 6

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6421

「グランド・ジェネレーション」 を対象とした消費スタイルの提案について

「グランド・ジェネレーション」(以下：グラジェネ)とは、第2の人生を多様なスタイルで楽しんでいる50、60、70代の年長者を指すことばであります。この世代は、高度成長期を支えてきた世代、団塊の世代、バブル体験世代であり、数にも層が厚く、質的にも消費意欲も旺盛な層と言われており、この新しいオトナ世代にスポットを当てて、サービスや商品の提案をする企業等が増えてきています。

その動きの一つとして、先日、イオングループ各社がそれぞれの分野で、「グラジェネ」に対しての取組を紹介するイベントが、東京有楽町の東京国際フォーラムで行われました。ここでは、「グラジェネ」に対し、全ての生活シーンへの提案を行っていましたが、ここでは、特に、食に関する部分に焦点をあてて紹介します。

まず一つ目としては、「日本の食で、日本を元気にする、フードアルチザン(食の匠)のすすめ」として、ブースを設置し、商品の紹介及び販売を行っておりました。具体的には、国産(安曇野産果実)を使用したアイスワインのネット販売紹介を行っておりました。アイスワインは、デザートワインの一種で、凍った完熟葡萄から造られる甘みの強い、芳醇な香りの希少性が高い高級ワインです。「グラジェネ」に対して、質の良いものを食べたい、飲みたいとの要望に応えるかたちでの提案でした。

二つ目としては、「トップバリューマルシェ」のコーナーで、トップバリュの食材を使用し、グラジェネ世代のグッチ裕三さんの考案の特別レシピのランチメニューが紹介されていました。その世代にあった味や健康面に配慮したメニュー(グリーンカレー、牛丼、焼き豚丼の3種類)が披露され、多くの来場者が舌鼓をうっていました。

そのほか、家庭菜園、花の楽しみ方の提案等ブースを設けて行っておりました。

ある程度お金を持っている「グラジェネ」へのアプローチは、その子供世代、孫世代への消費喚起にも繋がるとあって、このような取組は、農業分野でも消費拡大の方策に応用ができる可能性を秘めているのではないかと思います。



フードアルチザンの紹介コーナー



「トップバリューマルシェ」の様子

東三河地域におけるトマトの生産動向について

豊橋市、豊川市、蒲郡市及び田原市からなる東三河地域はトマト生産の先進地であり、全国第3位を誇る本県のトマト生産量のほぼ7割を占めています。

当地域では、JAを通じ中央卸売市場などに出荷するトマトやミニトマトの生産が主体であり、大消費地への安定出荷に努めています。一方で、栽培の工夫等でフルーツの様に糖度を高くできたトマトについては、各JAで独自の基準を設け、JA豊橋は糖度8以上を「美」、9以上を「麗」、JAひまわりは6.5以上を「匠」、8以上を「パーフェクト」、「ロソソ」、JA愛知みなみは9以上を「龍珠」とブランド名を付けて販売し、ワンランク上の食味にも応じられる産地としても評価を高めています。

また、ミディトマトや生食調理兼用トマト、料理の飾り付けやソースなどに用いるマイクロトマトなど新しい系統のトマト生産に取り組む生産者や組織もあり、トマトの総合産地として層の厚みが増しています。

トマト栽培では、以前はメロンと組み合わせた年2作体系が多く見られましたが、メロンの需要動向を判断し、促成栽培と半促成栽培の組み合わせや長期一作型などによるトマト専作に移行する生産者が増えました。このことから、トマトの単収増加や品質向上に向けた新技術に高い関心を持っています。

栽培方式としては、従前の土耕栽培やロックウール栽培も健在ですが、近年では、トマト、ミニトマトともに圧縮ヤシガラ培地を用いた養液栽培が主流となってきました。特にJA豊橋の一部では、導入に要する費用を抑えるために養液ベンチ等の設置作業を生産者間で協力して行ったことなどから急速に導入が進みました。生産者組織内で肥培管理の視点が揃い、収量・品質向につながっています。

さらに高い生産性を追求する栽培技術としては、受光体勢に優れた高軒高ハウスにおけるハイワイヤー栽培、養液をトマトの根に直接噴霧することで窒素の少量分施と根系充実を図る噴霧水耕、ハウス内外の気温だけでなく、照度、湿度、炭酸ガス濃度などを総合的に判断し、複数の機器を制御してトマト生産に好適な環境を整える装置などが、地域の先進的農家から導入が始まっています。

上記のとおり、当地域のトマト産地は、年間を通じた供給と大衆品から最高級品までの品揃えで市場から高い評価を得ており、JA、生産者ともに意欲に溢れています。トマト先進地であるこの地で新規参入を試みる者もあります。

一方で、一部の生産団地や共同選果場では、設備が老朽化して手狭感を生じてきたところがあり、多額の費用を要するこれら施設の再整備を円滑に行えるかが、課題になっています。



ハイワイヤー栽培

「Farm to Wellness」 ～農場から健康へ～セミナーが開催されました

去る4月26日(木)に、名古屋に本社のあるデザイナーズフーズ株式会社主催「第3回Farm to Wellnessセミナー」が東京足立区千住ミルディスの大ホールにおいて、各分野の関係者、約1,000人が参加し行われました。

このセミナーは、第1回としては平成21年3月に、「医、食、農連携の時代」と題して行われました。そこでは、増え続ける医療費を削減することができるのは「健全な食」であり、健康で安全な野菜を作るのは「健康な土壌」と位置づけ、これからの日本農業を担う方々、食を通じて自身と国民の健康を担う方々、医学・薬学・農学・研究機関など様々な分野で国民を健康へと導く方々と共に、改めて医・食・農連携の時代を創造することを目的に開催されました。

2回目は平成22年3月に、健康な土地から生まれた食べ物(野菜)こそが真の健康につながると考え、「農場から健康へ(Farm to Wellness)」をコンセプトに行われました。

そして、3回目を迎えた今回は、東日本大震災、福島第一原発事故からの様々な影響や風評被害がある中、国内の農畜水産物の「安心・安全」をどう確保・証明していくか等、現在おかれている状況を踏まえ、更なる日本農業の繁栄と国民の健康推進に貢献する目的で行われました。

まずは、3人の講師による講演が行われました。はじめに、特別記念講演として農林水産省食料産業局の山口靖外食産業室長より、「美味しく健康な食が日本農業再生のシナリオ」と題して行われました。山口室長は、食料産業局の新たな体制での取組の概要を説明するとともに、「6次産業化」の次世代モデルとして、「健康長寿」、「未病対応」の重視した医食農が連携することによる国民の健康と農林水産業の国際競争力強化の必要性などについて話されました。



講演様子(山口室長)

次に、社団法人生命科学振興会の渡邊昌理事長より、「美味しく健康な食こそが日本人を健康にし、増大する医療費を削減する」と題して行われ、医療費の削減のためには、日々の食事による食養（栄養学）、食療（食事療法）などを含めた統合医療の重要性について話されました。

三番目には、浜松大学健康栄養学科の金谷節子教授より、「なぜ、アンチエイジング力（抗酸化力）のある食べ物が健康と美容に良いのか」と題しての講演も行われました。

講演の合間には、美味しく健康な食を目指した農産物やそれらを使った料理の展示や試食会も行われておりました。その一つとして、栃木産の同じ箱からのミニトマトをデザイナーフーズ独自の方法（企業秘密）で、抗酸化力の強いものとそうでないものをグループ化したものを来場者に食べ比べてもらう催しも行われておりました。

また、この会場では、数多くの協賛企業がブースを設けており、その中で、お菓子の明治(株)からは、お子さまの野菜嫌い克服の一つの解決方法として、ペースト状のチョコを野菜に付けて食べるチョコベジの提案が行われておりました。

最後に、情報提供という形で、主催者側より、「医食農工を繋げれば、健康と美容へのエビデンス（根拠）の構築ができる。生産、加工、流通販売のための連携・提携とエビデンスの付け方」と題して、なぜ、美味しいものは体に良いのかを、10数年にわたる多くの野菜検体の分析実績（約2万検体）から、野菜の機能性評価方法のあり方などについての説明がありました。

そして、その食品をいかに生産し流通させるかについて、生産者、流通関係者、消費者を繋ぐ方策についての提案がなされました。

全体を通じて、野菜の機能性評価についての根拠（エビデンス）の立証方法についての詳しい説明があり、「医食農工」連携の重要性等が身近に実感できたセミナーでした。



ミニトマトの食べ比べをする来場者



野菜をチョコに付けて食べるチョコベジ

スプレーカーネーションの新品種「カーネ愛知6号」の開発

1 開発の背景・ニーズ

愛知県のカーネーション生産は作付面積 57.0ha、出荷数量 5,750 万本、生産額 20 億円で長野県に次いで全国 2 位です。主な産地は、西尾市、田原市などです。農業総合試験場花き研究室では、本県オリジナル品種の育成を要望する生産者の声を受け、平成 6 年度から愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション部会及び育種クラブの協力を得て、カーネーションの育種に取り組んでいます。

今回紹介する「カーネ愛知 6 号」は、愛知県で育成された 6 番目のカーネーションです。

2 育成経過

「カーネ愛知 6 号」は、淡黄色花・中晩生の本県育成系統を種子親、淡ピンク色花・中生の同系統を花粉親とする組合せから得られた品種です。平成 17～18 年に交配した 120 組合せ、約 8,000 個体の実生から選抜を繰り返して育成しました。平成 22 年に一色町（現西尾市）、豊橋市で 1,000 株規模の現地展示試験を行うとともに、市場性評価も行いました。生産者、市場関係者からの評価も高かったことから選抜を終了し、平成 23 年 10 月に育成を完了しました。平成 23 年 12 月 9 日に登録出願し、平成 24 年 3 月 16 日に出願公表されました。

平成17年	平成18年	平成19年	平成20、21年	平成22年	平成23年10月
育成系統「00sp20H6A」 ×の交配	一次選抜	二次選抜	三次、四次選抜	特性検定	育成完了
育成系統「00sp99C50A」 約10,000粒	約8,000個体	91系統	8系統	現地試作	拡大展示
			3系統、2系統	1系統「カーネ愛知6号」	

生産者の声

- ・ 一番花から茎が硬く良く伸びる。
- ・ 花が大きくボリューム感がある。

市場関係者の声（全国 6 市場で調査）

- ・ 花色がよく、他品種にない優しい感じの縁取り。
- ・ 花数が多くボリューム感がある。
- ・ 茎がしっかりしている。

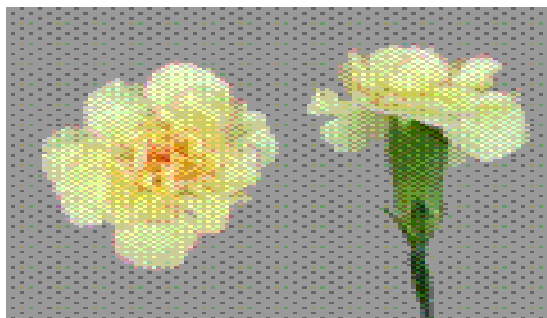


写真 1 「カーネ愛知 6 号」の花

3 「カーネ愛知6号」の特徴

花卉の地色は淡い黄色で鮮やかな紫ピンクの細い縁取りがあります。かわいらしい印象で、花柄が長く硬いのでフラワーアレンジメントにも向きます。やや大きめの花が1枝に4～6花咲くので、非常にボリューム感があります。茎は太く硬く、節折れせずしっかりしています。

開花の時期は中晩生で、6月下旬定植で11月下旬から一番花が収穫できます。茎の伸びがよいので、秀品率が9割以上と高くロスが少ないことも特徴です。



写真2 対照品種との比較

左から「プリン」, 「カーネ愛知6号」, 「インテルメッツォ」



写真3 カーネ愛知6号

4 県育成カーネーションについて

愛知県育成カーネーション品種は、現在「ドリーミーピンク」、「ファーストラブ」、「カーネアイチ4号」（愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション部会における統一流通名：ドリーミーラベンダー）、「カーネアイチ5号」（同：ドリーミーライム）の4品種が栽培されており、新たに「カーネ愛知6号」（同：ドリーミーアニム）が加わり5品種となりました。今後は、萎凋細菌病などに対する抵抗性の付加も目標にしながら、引き続き産地の活性化に向けて品種改良を進めていきます。



「ドリーミーピンク」



「ファーストラブ」



「カーネアイチ4号」
(ドリーミーラベンダー)



「カーネアイチ5号」
(ドリーミーライム)

母の日向けのカーネーション需要について

今年は2～3月にかけてどの品目も数量不足で高単価で推移していました。さて母の日の主役となるカーネーションについては、市場関係者の話によると注文の出だしが早いものの、数量の爆発的な需要はないものと予測しています。

そんな中、東京・銀座 ソニービルでは、昨年5月から「Ginza Flower Letters (ギンザフラワーレターズ)」と題し、それぞれの季節を代表する花卉を一早く展示されました。

4月9日から15日にかけては、「母の日にカーネーションを贈ろう！」と題して「母と子の絆」をテーマに、愛知県、香川県、千葉県、静岡県産の多種多様な色とりどりのカーネーションがフラワーボックスで展示されました。

また、東日本大震災の被害を受けた宮城県名取市産のカーネーションも展示され、合わせて2,200本で彩られました。

当ビルは待合いスペースなどとしても利用されており、この場を訪れた人たちは、色とりどりのカーネーションを撮影するなど多くの方が花に興味を示していました。

14日(土)、15日(日)の2日間には、展示しているカーネーションをデジタルスチルカメラや携帯電話などで撮影して頂いた親子の方、各日先着200組様にカーネーションの花束をプレゼントするイベントが開催されるなど、一足早く「母の日」を楽しむことができました。



【主な展示品種】太字は愛知県産

ピンク系(ドヌーブ、マーロ、**ラム**、カトリーナ、アリエル、**パピヨン**、**サラ**、**ミュ**、ハリケーン、**モントリオール**、**ピーチマンボ**)

赤(フランシスコ、ズリコ、エクサリア)

白(**デルフィ**、シルクロード、シベリア)

グリーン系(**セイシェル**、**ゼバ**、プラドミント)

黄(ミナミ、リバティ)

オレンジ(アップルティ、タマリンド)

その他(茶：**キャラメル**、複色：**コマチ**、**フェスタコマチ**)

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋中央卸売市場（品目：みつば）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
23年実績	595	583 (98%)	473	407	静岡 (2%)
24年見通し	583	-	479	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>水耕で周年栽培され、天候の良い春と秋に生育する。秋は夏の高温の影響を受けやすいので注意。 重油高により、年々加温制限する生産者が増え、収量減の傾向。また、生産コスト高により他品目に生産を切り替える業者が増え、入荷量減少。 通年では価格に大きな変化はない。</p>			<p>嗜好の変化により、若年層ほど食べなくなっている。春・夏の消費拡大のため、お吸い物以外のさまざまな料理に取り入れられるような工夫が必要。 生産者総数は少ない。また、みつば以外の生産物を生産するようになってきている。 水耕栽培自体の生産者は若年層を中心に増加傾向。</p>		

東京都中央卸売市場（ペコロス）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
23年実績	14	9 (63%)	598	720	ニュージーランド (23%) オーストラリア (9%) 北海道 (6%)
24年見通し	13	-	620	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>例年、4月から本県産の入荷が始まり、5月に出荷のピークをむかえる。本県での作付減に加え、今年は2、3月冷え込みとここきての曇雨天の影響で例年より1週間から10日程度の遅れがある。品質的には問題なし。 入荷量は少なかった前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>			<p>ペコロスは業務向けを中心に安定した需要はある。昨年は震災の影響で業務の動きが極端に悪かったが今年は回復傾向である。 近年、外国産の入荷量が年々増加している中、愛知産の他は国内産地は数少ないため、品質的にも評価の高い愛知産には安定的な出荷を期待している。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

名古屋中央卸売市場

4月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	19年	40,504	191	204	192	180	愛知 29%
	20年	40,658	191	183	200	191	茨城 8%
	21年	39,226	195	209	196	185	北海道 8%
	22年	36,281	213	235	198	209	長崎 7%
	23年	36,170	189	187	190	191	
	5カ年平均	38,568	196	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	36,600	210	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は地元愛知が中心。冬の冷え込み、日照不足、曇り、雨、病気の影響を受けて生育が遅れている。 4月中旬以降に入荷量が増加し、5月にかけて全体的に回復していくと見られる。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	19年	2,290	82	80	80	86	愛知 88%
	20年	2,411	88	85	100	82	長崎 6%
	21年	2,388	85	84	84	88	鹿児島 3%
	22年	2,280	89	87	90	92	岐阜 1%
	23年	2,286	58	51	54	78	
	5カ年平均	2,331	81	78	82	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	2,100	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
4月の産地の主力は愛知。生育不順により単価高の状況。千葉県が生産が6月から増加見込み。青森は雪解けの遅れで生産量は6月も少ない見込み。 入荷量は前年をかなり下回る見込み。価格は入荷量の減少により大幅に前年を上回る見込み。							
にんじん	19年	2,736	128	155	132	105	徳島 86%
	20年	2,252	202	200	233	181	岐阜 1%
	21年	2,950	112	142	120	88	中国 1%
	22年	2,663	117	116	108	128	熊本 1%
	23年	2,591	129	147	130	114	
	5カ年平均	2,638	135	150	141	121	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	2,500	150	160	150	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
徳島産の生産物が大部分を占める。ゴールデンウィークから徳島県産の生産物の出荷がピークを迎えるが、例年よりも流通量は少なくなる見通し。 2LL規格の生産物が少ない。 入荷量は前年をやや下回る見込み。価格は前年を大幅に上回る見込み。							

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

東京都中央卸売市場

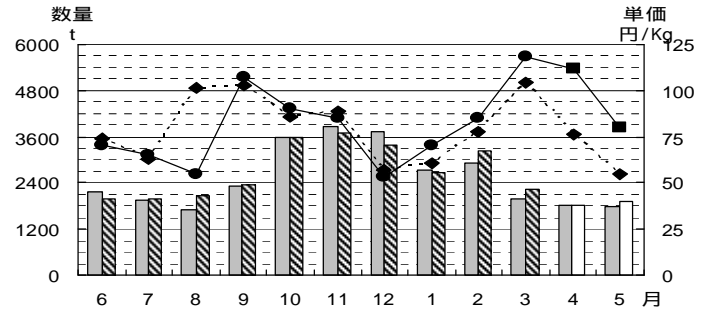
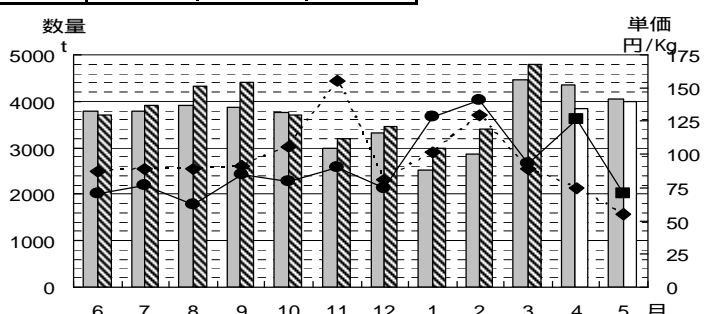
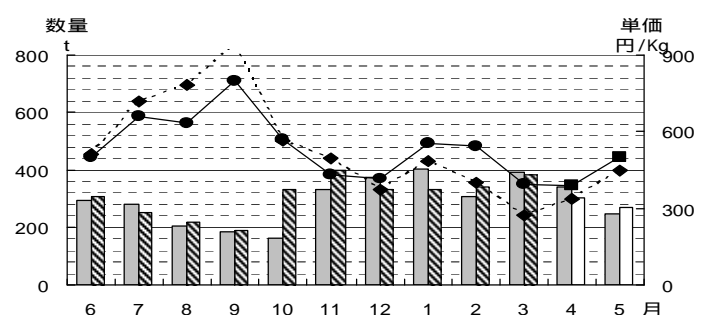
4月23日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地(%) (愛知産比率)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	19年	143,223	207	228	195	197	千葉 18%
	20年	141,595	218	217	227	211	茨城 14%
	21年	137,120	222	233	218	216	佐賀 7%
	22年	134,986	225	239	212	225	神奈川 5%
	23年	136,710	201	199	195	232	(愛知産比率4%)
	5ヵ年平均	138,727	215	223	209	216	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	133,000	230	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
入荷の中心は関東産地となり、土物類果菜類は西南暖地からの入荷が本格化する。厳寒期の低温・曇雨天の影響から生育遅れの品目が目立つが気温の上昇とともに回復してくる見込み。 入荷量が前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	19年	9,302	85	84	79	90	千葉 86%
	20年	9,589	85	87	97	73	茨城 8%
	21年	8,952	89	87	89	91	青森 2%
	22年	9,678	90	98	87	85	埼玉 2%
	23年	9,642	64	55	57	81	(愛知産比率0%)
	5ヵ年平均	9,433	82	82	82	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	9,150	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉からの入荷が中心となる。終盤に入るが前月同様、厳寒期の低温の影響による不作傾向で推移している。青森も雪解けが遅く、遅れで下旬からの出荷となる見込み。入荷量は多かった前年をやや下回る見込み。価格は前月からの高値傾向が続き前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	19年	7,828	143	156	146	131	徳島 68%
	20年	7,486	217	203	247	200	千葉 19%
	21年	8,427	131	151	135	108	埼玉 4%
	22年	8,526	133	130	123	149	中国 3%
	23年	8,730	138	152	140	138	(愛知産比率0%)
	5ヵ年平均	8,199	151	158	158	145	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	8,100	135	150	135	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
徳島と千葉からの入荷が中心となる。徳島は低温による生育遅れで始まり、遅れたものが中旬に出荷ピークをとる。千葉は下旬より本格化する。 入荷量は前年をわずかに下回るものの、価格は前月からの高値の反動もあり前年並の見込み。							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	19年	2,364	78	87	68	77	茨城 55% 愛知 31% 長野 7%
	20年	2,456	76	71	84	73	
	21年	2,141	93	115	82	81	
	22年	2,251	90	105	78	86	
	23年	1,766	55	52	48	69	
	5ヵ年平均	2,196	79	87	73	77	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,900	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は茨城を中心に、他に愛知、長野。生産物の育成に1週間～10日の遅れが生じている。5月中旬に回復してくる見込み。今後も産地の中心は茨城であるが、風評被害の影響を受け昨年は入荷量減少。入荷量は前年をかなり上回り、価格も前年を大幅に上回る見込み。							
キャベツ	19年	3,735	103	114	109	89	愛知 73% 兵庫 10% 茨城 8% 神奈川 4%
	20年	4,013	74	82	82	60	
	21年	3,951	132	170	124	112	
	22年	3,525	104	114	99	101	
	23年	4,061	55	62	49	57	
	5ヵ年平均	3,857	93	108	92	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	4,000	70	70	70		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地の中心は愛知。次いで兵庫、茨城。昨年は震災後ということもあり、風評被害の影響が大きく、単価が大きく落ち込んだ。今年の単価は平年並みに戻る見通し。入荷量は前年並みの見込み。価格は前年を大幅に上回る見込み。							
ほうれんそう	19年	307	29	510	562	524	岐阜 71% 愛知 18% 群馬 3% 0 0%
	20年	309	49	520	528	463	
	21年	282	11	554	485	510	
	22年	296	6	541	521	473	
	23年	244	4	355	444	533	
	5ヵ年平均	288	0	501	511	499	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	270	0	550	500	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地の中心は、岐阜が中心。次いで愛知。岐阜の出荷量のピークは、5月下旬～6月上旬となる見込み。品質と単価の差が大きくなる。入荷量、価格ともに前年をかなり上回る見込み。							

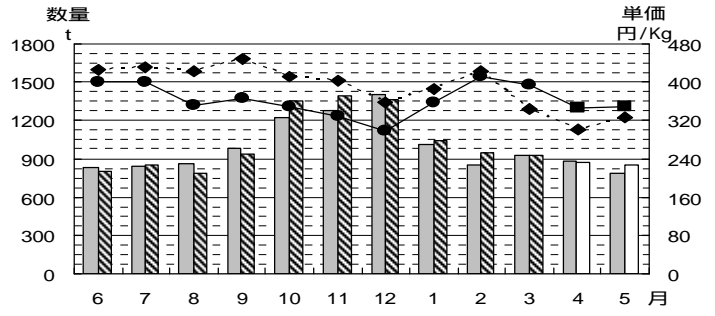
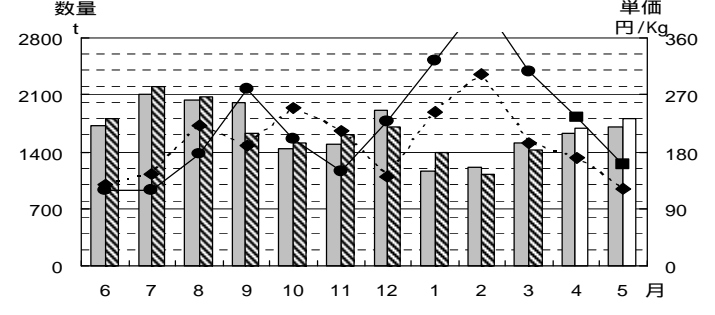
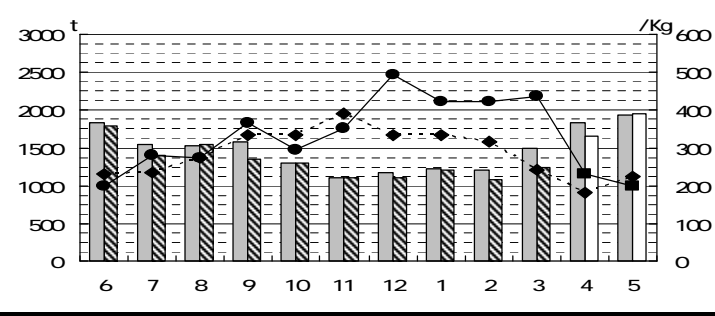
東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	19年	5,826	52	65	90	82	神奈川 38% 千葉 34% 愛知 18% 茨城 8% (愛知産比率0%)
	20年	6,096	54	49	84	59	
	21年	5,749	69	89	108	97	
	22年	6,353	67	79	77	94	
	23年	5,860	32	28	43	60	
	5ヵ年平均	5,977	55	62	50	54	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	5,850	55	55	55	55	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷が中心となり、長野からの入荷も始まってくる。茨城の生育は4月3日の爆弾低気圧により、被覆のはがれ、風ずれ等で遅れがあるが回復傾向で前年並の出荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年並みで、価格は4月から高値傾向が続き前年を大幅に上回る。</p>					
キヤベツ	19年	16,139	90	98	90	82	神奈川 38% 千葉 34% 愛知 18% 茨城 8% (愛知産比率18%)
	20年	16,800	72	75	84	59	
	21年	16,743	115	142	108	97	
	22年	18,886	88	92	77	94	
	23年	17,775	52	57	43	60	
	5ヵ年平均	17,269	83	93	80	78	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	18,000	80	100	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、神奈川を中心とした関東産地からの入荷が中心となる。千葉、神奈川とも遅れ気味で推移してきたものがゴールデンウィーク明けに増量出荷となる見込み。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は安値で推移した前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	19年	1,548	398	393	412	391	群馬 46% 埼玉 15% 岩手 13% 茨城 9% (愛知産比率0%)
	20年	1,727	393	417	438	340	
	21年	1,536	427	472	391	430	
	22年	1,704	404	418	425	377	
	23年	1,344	379	310	389	442	
	5ヵ年平均	1,572	401	402	411	396	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,400	380	400	380	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、埼玉の関東産地に加えて岩手からの入荷が始まる。寒さの影響で年末より高値基調で推移してきたが、気温の上昇に伴い遅れも解消してきているものの後続産地の岩手は寒さで遅れている。入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	19年	917	347	344	337	359	愛知 36%
	20年	876	416	414	422	412	鳥取 19%
	21年	907	379	392	357	390	大分 10%
	22年	813	453	417	472	469	中国 7%
	23年	783	328	316	323	365	
	5カ年平均	859	384	377	382	398	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	850	350	350	350		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青ねぎの中心は愛知。新ねぎへと生産は移行。12月以降の低温及び干ばつにより生育不良。 白ねぎの生産は静岡、鳥取、大分、関東地方。これらから中京圏に入ってくる。 入荷量、価格ともに前年をかなり上回る見込み。</p>					
							
レタ	19年	1,995	228	303	199	183	長野 52%
	20年	2,134	110	107	111	112	兵庫 42%
	21年	1,903	160	181	177	124	茨城 3%
	22年	1,688	202	270	197	129	愛知 3%
	23年	1,713	122	133	108	136	
	5カ年平均	1,887	164	197	158	137	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,800	160	200	250	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>5月前半の主な産地は兵庫、茨城。中旬からは、長野、茨城が生産の中心となる見込み。長野の出荷は低温、雪により落ち込んでいたので、5月下旬からピークを迎える。兵庫は5月に多く出荷する見込み。 入荷量は前年をやや上回る見込み。価格は前年を大幅に上回る。</p>					
							
きゅうり	19年	2,398	192	198	204	179	愛知 32%
	20年	2,407	186	181	237	157	高知 18%
	21年	2,316	221	166	233	276	宮崎 17%
	22年	1,992	195	180	200	208	埼玉 12%
	23年	1,939	224	181	220	276	
	5カ年平均	2,210	203	181	219	217	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,950	200	200	200	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地の中心は、愛知。産地の切り替えがある。宮崎、高知、鹿児島は減産し、群馬、埼玉、長野から出荷される生産物が増加する見込み。生育状況は悪い。1週間から10日ほどの生育の遅れが見られる。 入荷量は前年並みの見込み。価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	19年	4,461	254	273	224	262	茨城 34%
	20年	4,373	380	382	438	334	千葉 28%
	21年	4,029	330	303	320	362	埼玉 17%
	22年	3,629	374	345	374	398	中国 8%
	23年	3,803	314	308	298	347	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	4,059	329	322	331	341	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	3,800	350	240	290	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉などの関東産地からの入荷が中心。茨城は夏ねぎは細めの仕上がりで、出荷量は少なくなるが、ねぎ全体の遅れから春ねぎ、秋冬ねぎの残量は多い見込み。 入荷量は、前年をわずかに下回り、価格は安値で推移した前年をかなり上回る見込み。</p>					
レタ	19年	7,054	202	266	177	164	長野 38%
	20年	8,339	104	97	110	107	茨城 37%
	21年	7,857	139	159	149	115	群馬 14%
	22年	7,205	184	269	173	127	兵庫 5%
	23年	7,067	117	121	107	126	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	7,688	154	182	143	128	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	7,100	150	160	150	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城などの関東産地に加えて長野からの入荷が始まる。茨城は低温で遅れていたが回復傾向、長野、群馬はも定植遅れから本格出荷は下旬以降となる見込み。 入荷量は少なかった前年並を見込み、価格は消費環境が良好なことから前年を大幅に上回る見込み。</p>					
きゅうり	19年	8,701	207	220	207	195	埼玉 38%
	20年	8,368	200	195	276	155	群馬 21%
	21年	8,776	181	185	180	178	茨城 12%
	22年	8,118	201	191	204	208	千葉 10%
	23年	7,906	222	182	208	268	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	8,437	203	195	215	201	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	8,050	220	220	220	220	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。これまで、どの産地も天候不順により不安定な出荷が続いていたが、ここにきて回復傾向にある。遅れていたもののずれ込みもある。 全体の入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	19年	1,471	255	289	248	229	愛知 50%
	20年	1,389	279	275	281	280	熊本 34%
	21年	1,352	244	258	241	236	宮崎 9%
	22年	1,343	290	342	282	252	高知 5%
	23年	1,320	262	275	249	267	
	5カ年平均	1,375	266	288	260	252	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,300	270	260	270	280	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>生産物の中心は、愛知、熊本、宮崎。4月よりも5月は入荷量が増える見込み。5月の入荷量のピークは中旬。下旬から入荷量は減少傾向となる見込み。入荷量は前年並みの見込み。価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
ト	19年	2,090	222	262	199	207	熊本 39%
	20年	1,849	235	250	237	218	愛知 32%
	21年	1,678	294	329	315	249	三重 15%
	22年	1,710	260	321	235	235	岐阜 9%
	23年	1,961	193	227	177	195	
	5カ年平均	1,858	239	275	229	219	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,700	260	300	240	230	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>産地の中心は熊本、愛知、三重。これらの産地は全て生育遅れ。2、3月の低温が影響している。また、これにより入荷のピークもずれ込む模様。入荷量は、前年をかなり下回る見込み。価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>						
ミニ	19年	431	467	503	466	434	熊本 55%
	20年	443	454	463	436	459	愛知 32%
	21年	368	586	604	639	535	和歌山 10%
	22年	390	556	649	519	494	
	23年	496	435	450	428	401	
	5カ年平均	426	494	527	490	460	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	450	500	500	500	500	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>産地の中心は、愛知、熊本、和歌山。愛知の入荷量は5月から増加の見込み。熊本の生産物は一部病気により減少するが、持ち直す見込み。和歌山は3月は低温で花が飛ぶが、5月には回復してくる。入荷量は前年をかなり下回る見込み。価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
かなす	19年	5,234	275	308	266	254	高知 46%
	20年	4,581	335	337	358	319	福岡 18%
	21年	4,784	281	315	271	266	群馬 11%
	22年	4,435	310	357	288	289	佐賀 5%
	23年	4,262	314	330	305	328	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	4,771	301	329	298	291	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	4,250	310	310	310	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を始めとする西南暖地中心の入荷となる。高知は5月出荷分の着果量は十分にあり、病害虫の影響もなく生育は順調にきている。他の産地もやや遅れはあるものの生育自体は順調。 入荷量は前年並で、価格についても前年並の見込み。</p>					
トマト	19年	10,056	251	290	212	249	熊本 23%
	20年	9,149	270	284	287	246	栃木 17%
	21年	9,022	328	373	354	277	愛知 12%
	22年	8,546	299	331	277	293	茨城 10%
	23年	10,045	235	252	232	264	(愛知産比率12%)
	5カ年平均	9,237	285	306	272	266	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	9,500	300	330	300	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地と熊本からの入荷が中心となり引き続き本県からの入荷もある。各産地とも2、3月の低温、曇天の影響で樹勢が弱まり小玉傾向で推移してきたが、気温上昇と共に回復傾向。入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は消費環境も良く前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミニトマト	19年	1,501	434	498	415	392	熊本 36%
	20年	1,505	428	424	423	435	愛知 26%
	21年	1,327	545	556	603	494	千葉 11%
	22年	1,440	529	632	482	478	宮崎 8%
	23年	1,864	376	397	383	408	(愛知産比率26%)
	5カ年平均	1,430	475	501	461	441	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,550	450	500	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉、宮崎等からの入荷となる。各県産地とも厳寒期の低温と曇雨天の影響により遅れがあるが、気温の上昇とともにゴールデンウィーク後半から徐々に出荷量は増加してくる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	19年	891	253	332	259	195	宮崎 48%
	20年	818	296	366	289	254	鹿児島 26%
	21年	819	251	333	215	217	高知 13%
	22年	764	347	540	293	265	
	23年	757	194	217	193	224	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	810	268	357	250	230	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	780	300	320	300	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地の中心は、4月までは、宮崎、鹿児島、高知。茨城は5月ごろから入荷量が増加する見込み。例年よりも、25日ほど生育が遅れている。気温があまり上がりすぎると、品質の低下を招くので注意が必要。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
じゃがいも	19年	4,349	115	141	119	92	長崎 49%
	20年	4,374	120	112	121	129	鹿児島 33%
	21年	4,399	128	143	139	113	北海道 14%
	22年	3,339	175	191	158	183	
	23年	4,218	194	209	230	165	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	4,136	145	157	153	134	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	4,400	150	160	150	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地の中心は、長崎、鹿児島。メークインの早まきの入荷の始まりは4月下旬見込み。出荷の遅れにより、ピークがずれ込む。長崎は、早まき以外は順調。玉比率は、LLが主体。鹿児島は例年より減少。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	19年	5,827	47	55	44	41	愛知 60%
	20年	6,502	55	57	54	55	北海道 18%
	21年	5,828	73	68	76	76	兵庫 15%
	22年	5,767	87	100	83	80	佐賀 2%
	23年	4,515	70	88	73	58	
	5カ年平均	5,688	66	72	65	62	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	5,000	86	90	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地の中心は、愛知。出荷が遅れているが、5月に回復し増加する見込み。他の産地も、同様に5月中旬以降に回復する見込み。北海道産のものは、4月までは入荷量があるが、5月以降は減少していく。入荷量は前年をかなり上回る見込み。価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	19年	2,803	296	368	246	268	茨城 75%
	20年	2,463	352	387	383	303	高知 10%
	21年	2,681	291	338	301	247	宮崎 7%
	22年	2,368	384	519	346	317	鹿児島 5%
	23年	2,492	219	227	200	238	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	2,599	331	368	295	275	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	2,500	300	320	300	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷が中心となる。遅れていた茨城の春ピーマンは回復に向かいゴールデンウィークにかけて増量出荷となる見込み。高知も病害もなく順調な出荷入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年並を見込み。価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	19年	10,608	116	128	121	101	長崎 45%
	20年	10,697	121	118	117	127	鹿児島 33%
	21年	9,902	142	137	140	150	北海道 16%
	22年	9,484	175	174	158	197	熊本 3%
	23年	9,534	207	191	222	208	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	10,322	135	150	152	157	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	9,500	160	180	160	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>九州産地を中心にあとは北海道からの入荷となる。九州各県は遅れていたものが5月にずれ込み総体では前年並の出荷となる。北海道は計画通りの安定出荷となる。</p> <p>総体入荷量は前年並となり、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	19年	15,768	53	56	55	49	佐賀 63%
	20年	15,162	72	70	70	76	兵庫 11%
	21年	12,412	99	97	97	102	北海道 8%
	22年	12,218	109	126	104	99	千葉 5%
	23年	14,244	78	95	86	59	(愛知産比率1%)
	5カ年平均	14,154	82	89	82	77	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	13,000	90	100	90	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>佐賀からの入荷が中心となる。佐賀は厳寒期の低温の影響で生育は遅れ気味で推移しているが5月には回復に向かう。兵庫も同様の傾向であり、生育全般に若干遅れがみられる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値傾向で推移しており前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果	19年	11,868	338	351	337	327	熊本 29%
	20年	11,202	320	317	310	331	フィリピン 23%
	21年	10,647	312	323	305	310	青森 11%
	22年	9,766	321	325	321	316	アメリカ(合) 9%
	23年	9,703	318	330	314	315	
	5カ年平均	10,637	322	-	-	-	
	24年見通し	8,000	360	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本、フィリピン、青森が中心。 冬の低温等により、入荷量に影響が出てくる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回る見込み。価格は前年をかなり上回る見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	19年	1,684	311	312	279	270	熊本 57%
	20年	1,482	327	349	313	321	メキシコ 20%
	21年	1,197	325	404	345	273	愛知 8%
	22年	1,002	363	418	379	314	0 0%
	23年	1,267	311	429	322	296	
	5カ年平均	1,326	325	-	-	-	
	24年見通し	850	380	450	400	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地の中心は、熊本、メキシコ。 国産はゴールデンウィーク明けから増える見込みだが、前年よりは少ない見込み。 メキシコ産の動きはわからない。 入荷量は前年を大幅に下回る見込み。価格は前年を大幅に上回る見込み。						
すいか	19年	2,031	207	216	218	192	熊本 89%
	20年	2,096	206	217	208	193	愛知 11%
	21年	1,950	212	225	217	195	
	22年	1,770	209	218	208	202	
	23年	1,725	206	221	214	217	
	5カ年平均	1,914	208	-	-	-	
	24年見通し	1,700	210	220	210	200	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本中心。 愛知のハウスものは減少傾向。路地ものが主体となる見込み。 入荷量、価格ともに前年並みの見通し。						

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果	19年	31,355	386	409	377	374	熊本 21%
	20年	32,321	355	357	352	356	フィリピン 14%
	21年	33,700	329	353	331	308	青森 17%
	22年	30,129	347	362	343	338	米国 8%
	23年	30,218	342	374	336	320	(愛知産比率1%)
	5カ年平均	31,545	352	371	345	339	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	30,000	350	-	-	-	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロン、りんご中心におうとう、みかんなどのハウスものが入荷する。施設での加温を必要とする品目では、冬場の寒さに加え燃油料金の高騰の影響があり生育遅れや生産減といったことがあり、出荷数量は減少する見込み。 全体の入荷量は少なかった前年並を見込み、価格は前年をやや上回る見込み。						
アンデスメロン	19年	1,655	409	396	397	425	茨城 66%
	20年	1,154	437	434	449	432	熊本 33%
	21年	1,202	377	478	482	304	鹿児島 1%
	22年	659	474	475	490	460	(愛知産比率0%)
	23年	1,141	392	438	392	366	
	5カ年平均	1,162	412	444	442	397	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,000	420	440	420	400	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	主力産地が熊本から茨城に移行する。熊本は低温による玉肥大不足での小玉傾向で少ない出荷量のまま中旬で終了。茨城も生育遅れあり、中旬以降本格化してくる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
すいか	19年	6,841	230	243	235	217	熊本 66%
	20年	6,571	227	239	231	216	千葉 17%
	21年	7,086	224	253	234	198	茨城 12%
	22年	5,606	236	253	228	228	群馬 5%
	23年	6,141	227	246	232	211	(愛知産比率0%)
	5カ年平均	6,449	229	247	232	214	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	5,800	240	240	23	220	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本中心に茨城、千葉から入荷する。熊本は遅れていたが、5月より平年並の出荷となる。千葉も遅れありで出回りは少なめとなる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						

切花・鉢花の5月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 4月24日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実 績	19年	2,727	39	
		20年	2,685	43	
		21年	3,444	27	
		22年	2,079	44	
		23年	2,084	38	
	5ヶ年平均	2,604	37		
24年見通し	2,180	40			
概要	<p>愛知、三重、沖縄等から入荷。今年も冷え込みがかなり厳しかったことから全体ではかなり遅れが見られる。その上重油の単価は、2月から3月が約87円で推移、4月22日時点で90.5円となり、昨年でも70円を超えると生産ができないレベルと話していたが、今年はこのような状況でしっかり重油を炊くことができなくなっている。3月～5月にかけての生産量は減少に向かう可能性もある。地物も徐々に出荷が始まった。約半月遅れのスタートでこの5月に色物中心に出荷がある。結果白菊はやや少なめで色物はやや多くなりそうである。</p>				
小 ぎ	実 績	19年	1,457	20	
		20年	1,413	23	
		21年	1,195	24	
		22年	819	33	
		23年	998	35	
	5ヶ年平均	1,176	26		
24年見通し	1,000	35			
概要	<p>愛知、沖縄、奈良から入荷。5月一杯までは沖縄産も出荷はある。しかし、気温の上昇とともに品質は悪くなり引き合いも減少するが他に変わる産地がこの時期にないのでやや高めで推移すると思われる。県内産の小菊も一部では既に出荷もあるが、実際には寒さの影響からかなりの遅れが見られる。奈良県産も中旬以降からしか出荷はなく始めは60センチ前後の商品からのスタートとなりそう。全体的にはやや不足傾向になると思われる。</p>				
カー ネー ション	実 績	19年	1,998	47	
		20年	1,970	42	
		21年	1,819	42	
		22年	1,749	34	
		23年	1,768	37	
	5ヶ年平均	1,861	41		
24年見通し	1,800	40			
概要	<p>愛知、長野、和歌山等から入荷。今年は1～3月の冷え込みが厳しく、少し遅れ気味。母の日が遅いため、何とか対応可能だが、ピークは母の日から母の日明けとなり、母の日明けは苦しい展開となる。</p>				
か す み	実 績	19年	336	57	
		20年	336	56	
		21年	271	62	
		22年	214	70	
		23年	256	53	
	5ヶ年平均	283	59		
24年見通し	270	58			
概要	<p>和歌山、高知、熊本、愛知から入荷。各産地、上旬より数量は増加し、母の日の出荷量に心配はない。気温の上昇による品質低下に少し不安があるが、価格は上位等級は中値、下位等級は強い相場となる。中旬以降は品質で価格差が出やすく、下位等級は安くなる。</p>				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	19年	454	149	
		20年	483	135	
		21年	383	156	
		22年	359	159	
		23年	416	144	
	5ヶ年平均		419	148	
	24年見通し		400	150	
概要	高知、埼玉、岐阜、愛知を中心に各産地から入荷。高冷地からも入荷があり、数量は多い。母の日需要がP系中心に見込めるが、カサブランカなど白系も活発な動きとなろう。LA、鉄砲は少なめの入荷。LAのP以外は母の日とは関係なく、業務の動きに左右さそうだが、量的に価格は安定しそう。				
洋らん	実績	19年	328	88	
		20年	414	76	
		21年	302	88	
		22年	396	67	
		23年	386	80	
	5ヶ年平均		365	79	
	24年見通し		400	80	
概要	愛知、鹿児島、静岡、徳島等と輸入物が入荷。4月は入量が多く、全体的に低調だったが、季咲きの方は落ち着き、価格は回復してくるだろう。4月が低調だっただけに母の日関連、婚礼需要など相場の回復を図りたい。				
ばら	実績	19年	1,092	69	
		20年	1,129	67	
		21年	1,150	67	
		22年	1,000	69	
		23年	1,012	70	
	5ヶ年平均		1,077	68	
	24年見通し		1,060	70	
概要	愛知、岐阜、三重、和歌山中心に入荷。輸入のバラの入荷が減少し、徐々に高冷地の出荷が始まる。前半、連休、母の日とかなり集中する見込み。各地で母の日に向け調整中。				
枝も	実績	19年	1,366	42	
		20年	1,321	43	
		21年	1,269	43	
		22年	1,589	39	
		23年	1,587	40	
	5ヶ年平均		1,426	41	
	24年見通し		1,600	40	
概要	愛知、岐阜、静岡中心となって、入荷。今年は寒さの影響で昨年以上に生育が遅れ、販売に影響が出そう。前半は子供の日、母の日と活発な動きとなりそうだが、後半は鈍化しそう。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラダ	実績	19年	36,723	748	
		20年	47,060	647	
		21年	44,063	533	
		22年	44,317	500	
		23年	34,160	539	
	5ヶ年平均		41,265	591	
	24年見通し		32,000	530	
概要	<p>入荷量は生産減のため減少か。昨年同様5号鉢主体だが、4号鉢も増加傾向により相場安定か。花色でピンク系の発色の良いもの他に、黄色系では輪数が多いものは引き合いが強いと予想。 昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位長野県(37.5%)、2位愛知県(32.8%)、3位新潟県(12.4%)となっている。</p>				
ファレノブシ	実績	19年	61,149	2,507	
		20年	64,381	2,266	
		21年	52,823	2,145	
		22年	50,638	2,252	
		23年	55,214	1,932	
	5ヶ年平均		56,841	2,228	
	24年見通し		57,000	1,900	
概要	<p>入荷量は昨年より増加か。2~3月の寒さの影響により母の日に向けて一気に入荷を期待。ミディアムタイプ、大輪タイプとも生育状況は順調だが、相場は下げ傾向か。 昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(60.4%)、2位静岡県(7.3%)、3位熊本県(7.1%)となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	19年	93,180	369	
		20年	119,144	378	
		21年	83,350	397	
		22年	95,354	362	
		23年	89,686	355	
	5ヶ年平均		96,143	372	
	24年見通し		96,000	365	
概要	<p>入荷量は平年並みか。中大輪品種や変り色、芳香性品種は引き合いが強いと予想。高額商品の相場は厳しく下げ傾向となりそう。 昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位岐阜県(46.7%)、2位愛知県(36.7%)、3位その他(4.8%)となっている。</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ド ラ リ ア	実 績	19年	113,369	731	
		20年	144,634	765	
		21年	190,684	700	
		22年	216,332	669	
		23年	222,346	675	
		5ヶ年平均	177,473	701	
	24年見通し	230,000	680		
概要	<p>入荷量は昨年より増加か。母の日需要が中心であるが、昨年より母の日が遅いため、販売日も長くなるので期待。昨年に引き続き、褐色系、オリジナル品種等に人気が集中か。昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(66.8%)、2位群馬県(7.8%)、3位その他(7.4%)となっている。</p>				
ス パ テ イ フ イ ラ ム	実 績	19年	43,811	334	
		20年	49,838	280	
		21年	38,033	243	
		22年	50,241	258	
		23年	40,934	272	
		5ヶ年平均	44,571	278	
	24年見通し	40,000	270		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。素材としての苗ポット需要は例年より増加の為、期待。~4号鉢は微増だが、7号鉢以上は微減か。昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位三重県(45.1%)、2位愛知県(42.3%)、3位岐阜県(9.8%)となっている。</p>				
カ ー ネ ー シ ヨ ン	実 績	19年	424,904	460	
		20年	433,670	472	
		21年	366,430	466	
		22年	370,288	450	
		23年	365,580	434	
		5ヶ年平均	392,174	457	
	24年見通し	370,000	450		
概要	<p>母の日が遅いので、入荷量は増加か。定番の赤、ピンクを中心に引き合いが強いと予想。近年、母の日の直前需要が著しく短期間となるので、下旬の相場は下げ傾向か。昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(44.7%)、2位茨城県(18.2%)、3位福島県(6.2%)となっている。</p>				

主要農林水産物の輸出入実績(2012年)

1 輸入実績

品名	2月						2月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	92,660	107.2	8,336,659	92.1	90	101.1	168,703	107	14,910,931	107	88	99.3
トマト	318	189.7	109,145	214.2	343	107.6	556	181	190,155	189	342	104.6
たまねぎ	29,640	79.5	963,290	53.3	32	67.7	58,765	133	1,845,278	50	31	66.8
にんにく	1,397	121.4	137,745	52.9	99	228.3	3,094	121	315,230	55	102	45.1
ねぎ	4,078	103.7	423,977	118.0	104	122.3	8,448	108	863,045	122	102	112.3
ブロッコリー	5,530	215.9	794,172	170.3	144	78.5	8,929	195	1,330,663	176	149	119.4
結球キャベツ	7,015	170.1	220,792	154.2	31	89.9	10,719	193	324,346	168	30	86.5
にんじん・かぶ	5,527	100.7	208,046	81.9	38	81.8	10,921	129	372,092	92	37	77.1
ごぼう	3,505	113.2	172,804	67.0	49	59.0	7,562	72	366,185	79	48	57.6
えんどう	268	164.4	91,977	52.8	343	114.7	561	44	185,292	259	330	87.8
アスパラガス	3,202	143.1	1,234,494	80.6	386	86.6	4,636	129	2,011,279	117	434	90.8
まつたけ												
しいたけ	311	37.9	260,140	120.1	836	316.8	882	61	776,560	207	880	339.9
かぼちゃ	23,573	121.6	1,335,252	117.4	57	96.0	39,269	136	2,313,633	131	59	96.6
果実(生鮮・乾燥)	146,585	112.2	14,773,993	115.8	101	102.8	273,483	109	27,459,700	112	100	102.5
バナナ	81,050	101.1	4,645,533	100.8	57	99.4	158,296	102	8,819,098	101	56	99.5
パイナップル	10,854	106.4	606,363	93.7	56	99.8	20,952	107	1,170,196	93	56	101.8
レモン	4,501	65.5	509,337	64.7	113	101.0	8,916	130	1,027,474	134	115	102.9
オレンジ	11,887	143.9	1,032,677	133.4	87	92.4	18,724	160	1,675,083	148	89	92.3
グレープフルーツ	19,700	155.0	1,801,730	143.5	91	92.4	32,511	140	2,992,239	130	92	93.0
メロン	991	46.9	133,670	57.4	135	81.5	2,100	40	257,398	48	123	119.0
ぶどう	1,418	183.0	570,957	367.3	403	201.3	1,802	185	391,599	185	217	99.9
キウイ	460	229.0	79,297	203.3	172	88.9	528	263	90,255	231	171	88.1
いちご	19	275.1	14,252	253.9	740	91.4	33	333	25,105	294	761	92.1
切花(生鮮・乾燥)	3,138	110.0	2,357,154	90.4	751	99.4	6,146	108	4,674,541	111	761	102.6
鳥獣肉類	154,866	111.8	64,622,541	108.0	417	96.6	302,141	92	128,153,182	109	424	99.8
牛肉(くず肉含む)	40,099	108.5	15,968,989	105.2	398	96.9	77,307	106	30,370,224	103	393	98.0
豚肉(くず肉含む)	63,399	101.2	33,241,083	101.4	524	100.3	132,178	91	69,319,587	91	524	100.3
鶏肉	45,540	72.1	11,934,811	146.0	262	105.3	80,523	87	21,161,078	122	263	106.0
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	124,356	109.8	70,530,786	110.1	567	100.2	289,947	91	157,354,362	90	543	99.1
まぐろ類	19,779	125.1	19,035,010	117.6	962	106.4	35,760	88	32,004,216	114	895	101.2
さば・さんま・あじ・いわし	8,807	144.2	1,436,831	68.4	163	101.3	25,034	71	4,346,173	144	173	102.1

2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	336	17.8	180,334	31.6	537	177.8	1,155	13	608,227	21	527	161.7
うんしゅうみかん	29	93.5	12,607	80.9	442	89.1	88	67	51,663	61	587	90.7
りんご	276	5.7	115,707	41.5	420	157.9	968	11	410,332	16	424	141.8
なし	0	24.5	244	18.9	498	123.3	6	28	2,560	30	427	95.6
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)			226,501	110.1					335,666	86		
緑茶	158	87.3	321,784	93.9	2,037	107.4	299	89	623,009	104	2,084	117.1

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成22年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	23年10月	100.0	111.2	92.2	99.7	100.1
	11月	99.4	90.3	94.8	99.4	99.9
	12月	99.4	90.6	98.9	99.5	101.1
	24年 1月	99.6	106.3	113.5	99.9	103.2
	2月	99.8	107.1	118.7	99.7	101.4
愛 知 県	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	23年10月	100.0	114.4	93.3	102.0	104.1
	11月	99.3	91.0	93.4	98.8	101.5
	12月	99.3	92.3	98.6	100.0	103.1
	24年 1月	99.3	103.7	117.4	100.5	104.0
	2月	99.8	106.8	123.6	101.3	102.2

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	22年平均	95.7	98.0	100.7	91.5	98.5
	23年10月	107.4	97.2	137.3	103.7	99.0
	11月	98.1	97.9	93.6	135.9	98.1
	12月	102.3	99.3	109.9	135.2	99.4
	24年 1月	109.2	99.9	131.8	140.2	97.5
	2月	111.7	99.4	137.4	143.5	97.9

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシ加」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
22年平均	2,236	158	172	603	419	313	142	314	203	510	615	201	447
10月	1,987	169	291	759	572	300	217	363	205	628	925	186	-
11月	2,058	133	142	619	331	299	138	317	213	553	637	178	503
12月	2,053	118	128	565	401	286	113	356	224	687	665	183	447
24年 1月	2,058	211	152	705	625	280	150	302	216	721	651	182	531
2月	2,066	235	183	653	686	293	166	312	209	740	655	186	546
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g					
22年平均	604	312	382	143	254	682	603	162	166	326	223	752	479
10月	524	272	391	-	225	691	544	158	190	308	229	841	422
11月	466	240	395	-	210	646	521	150	164	295	219	756	398
12月	466	291	400	176	219	732	532	151	167	322	224	733	409
24年 1月	575	295	366	189	227	701	547	156	159	306	230	752	408
2月	645	293	381	195	217	821	536	161	168	322	231	763	399

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



いいともあいち運動って知ってる？

県内の消費者と生産者が今まで以上に**いい友**関係になる

Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

= もっと愛知県産品を食べよう (利用しよう)

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート 467
平成24年5月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6421